

# 京都文化芸術プログラム2020+

～文化庁の全面的移転の決定を受けて～

## —京都から文化芸術の力で地方創生を実現—

本年3月、長年の悲願であった文化庁の京都への全面的な移転が決定されました。これはオール京都、市民ぐるみの取組の成果であり、千年を超える歴史の中で育まれてきた京都の文化が高く評価されたものです。大きな喜びと同時に、京都が担う責任の大きさを感じ、身の引き締まる思いです。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、本市が取り組むべき文化芸術の施策をまとめた「京都文化芸術プログラム2020」。今回の移転決定を受け、「京都が全国の地方創生の先頭に立ち、文化の力で日本を元気にする」との決意を新たに、「京都文化芸術プログラム2020+」としてバージョンアップしました。

このプログラムに基づき、市民の皆様と共に一つ一つの取組を着実に進め、京都に息づく日本の文化を国内外に発信し、「世界の文化首都・京都」への飛躍、そして文化による全国の地方創生を目指してまいります。市民の皆様の御支援、御協力をお願い申し上げます。

平成28年8月



京都市長  
門川 大作

## 「京都文化芸術プログラム2020+(プラス)」とは

文化庁の全面的移転方針を受け、平成27年2月に策定した「京都文化芸術プログラム2020」に“日本中が文化で元気になる”という観点を「三つの方針」や「七つの視点」等の項目に盛り込み、平成32年(2020年)に向けて、“文化芸術によるまちづくり”により一層取り組みます。

### 東京オリンピック・パラリンピックの開催

- ▷ 京都文化芸術プログラム2020の推進
- ▶▶ 国内外へ京都の魅力を発信

+

### 文化庁の京都への全面的移転

- ▷ 移転に伴う文化庁の機能強化
- ▶▶ 文化庁を迎える京都から、全国に効果が波及

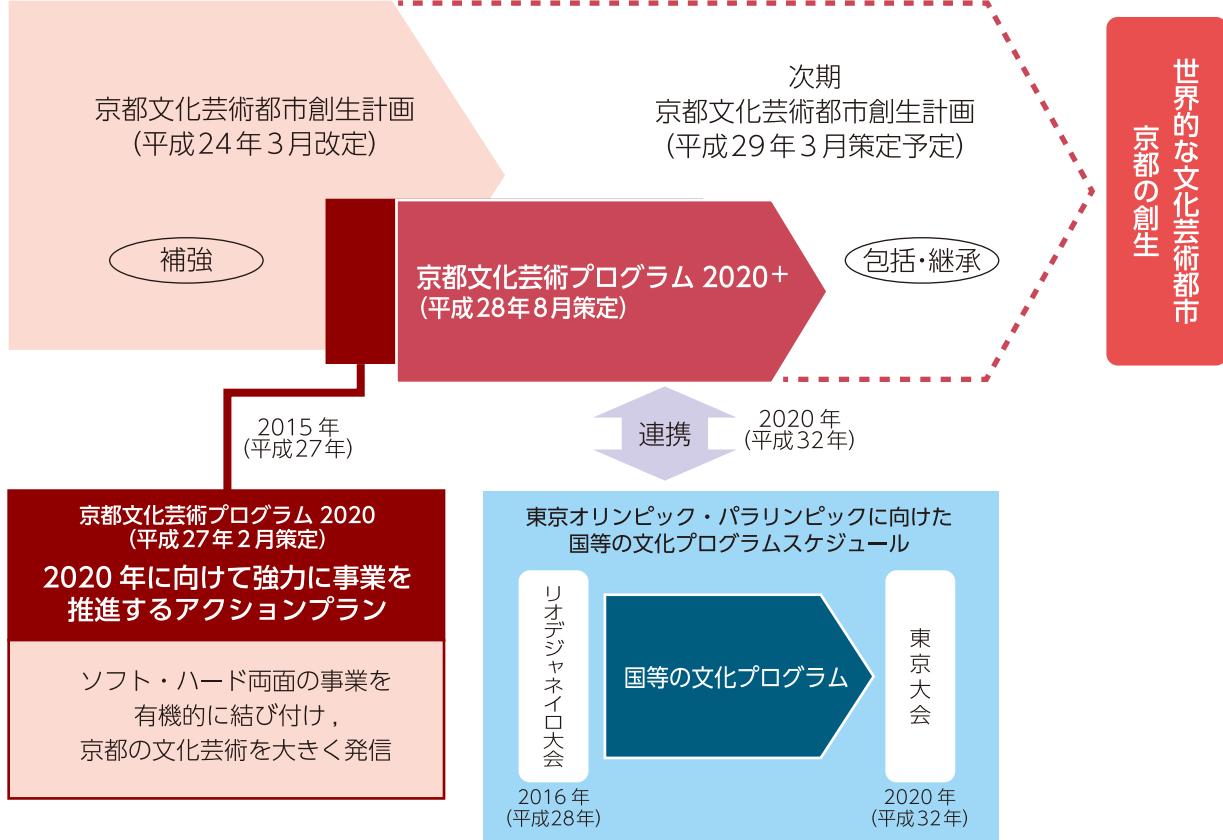
文化芸術の力で  
京都から日本を元気にする

文化  
芸術



あらゆる政策の融合を加速

# プログラムの位置付け



## 京都における文化庁移転の意義

- 1 京都は、地域コミュニティが今なお残り、日常生活に伝統的な文化が息づく、日本文化のふるさとです。文化庁が京都に移転することは、日本固有の文化を再評価し、日本人としてのアイデンティティを再確認する機会となるだけでなく、文化を基軸とした国づくり、地方創生につながるものとなります。
- 2 文化庁は、京都への全面的移転に合わせて機能強化を図ることとされています。文化庁を中心に関連する自治体、経済界、大学等の様々な主体が連携して、文化と観光、産業、教育、福祉、まちづくり等の幅広い分野を融合させ、京都の経験をも取り入れた広がりと深みのある文化行政を進めることにより、日本全体の文化力に磨きがかかることがあります。
- 3 文化庁の移転は、東京一極集中から政治経済の中心である東京と文化の中心となる京都という複眼的な国づくりが可能となります。新たな価値を創造し、生活の豊かさを支える文化を国づくりの一つの軸に据えることにより、文化の振興や持続的な経済発展、国際発信力の強化ができるほか、積極的な文化交流により世界平和に貢献することができます。

# プログラムの構成



夏休み芸術体験教室(邦楽)



ロームシアター京都



京都市美術館



月イチ☆古典芸能シリーズ  
「顔見世を知る」



京の食文化



地域に根差した暮らしの文化



アーティスト・イン・レジデンス  
パイス・チェン コンサート  
(会場: 京都芸術センター)

# プログラムを牽引する重要事業

文化庁の全面的移転方針を受けて、文化庁移転の趣旨である“日本中が文化で元気になる”という観点を踏まえ、以下の事業を推進します。

12

## 文化庁移転方針決定を受けた京都として 日本の文化芸術・ものづくり等の振興

果たす 活かす  
広める つなぐ

### ■事業内容

文化庁移転方針決定を受けた京都として、文化の力による日本の地方創生、文化交流を通じた世界平和へ京都が貢献し、国内外との連携を一層強化します。また、文化を通じて全国の地場・伝統産業等の振興に取り組みます。

### ■主な取組

- 文化庁の全面的な移転に向けた取組の着実な推進
- 文化を通じた全国の地場・伝統産業の振興など地方創生を進めるモデル事業の先行的な実施
- 多様な文化活動の場における文化庁のサテライト機能(民間文化団体や芸術家の交流・連携の創出等)を果たすための取組の推進
- 世界遺産・二条城が文化財の積極的活用のモデルとなる取組の実施
- 「京もの」の海外進出支援事業の推進
- 「伝統産業の日」の全国拡大をはじめとした伝統産業の振興
- 公共施設への和室設置をはじめ、市民等が和の文化に触れる機会をつくり、和の文化と伝統産業を振興することで市民の気運を高め、「和装」、「華道」及び「庭園文化」のユネスコ無形文化遺産への登録に向けた取組を実施
- 多様な地域資源を活かしたメディア芸術(コンテンツ産業)の振興
- 歴史的な町並景観の保全及び防災対策のための無電柱化事業の推進
- 市独自の「まち・ひと・こころが織り成す京都遺産」制度の推進と、「日本遺産制度」の活用による奥深い魅力の再認識と発信
- ICOM(国際博物館会議)京都大会2019の開催を推進
- 東アジア文化都市2017の開催
- 京都文化力プロジェクト2016-2020の実施
- 大政奉還150周年記念プロジェクトの実施



ICT 実証実験会場となった京都芸術センター



文化財の活用モデルとなる二条城

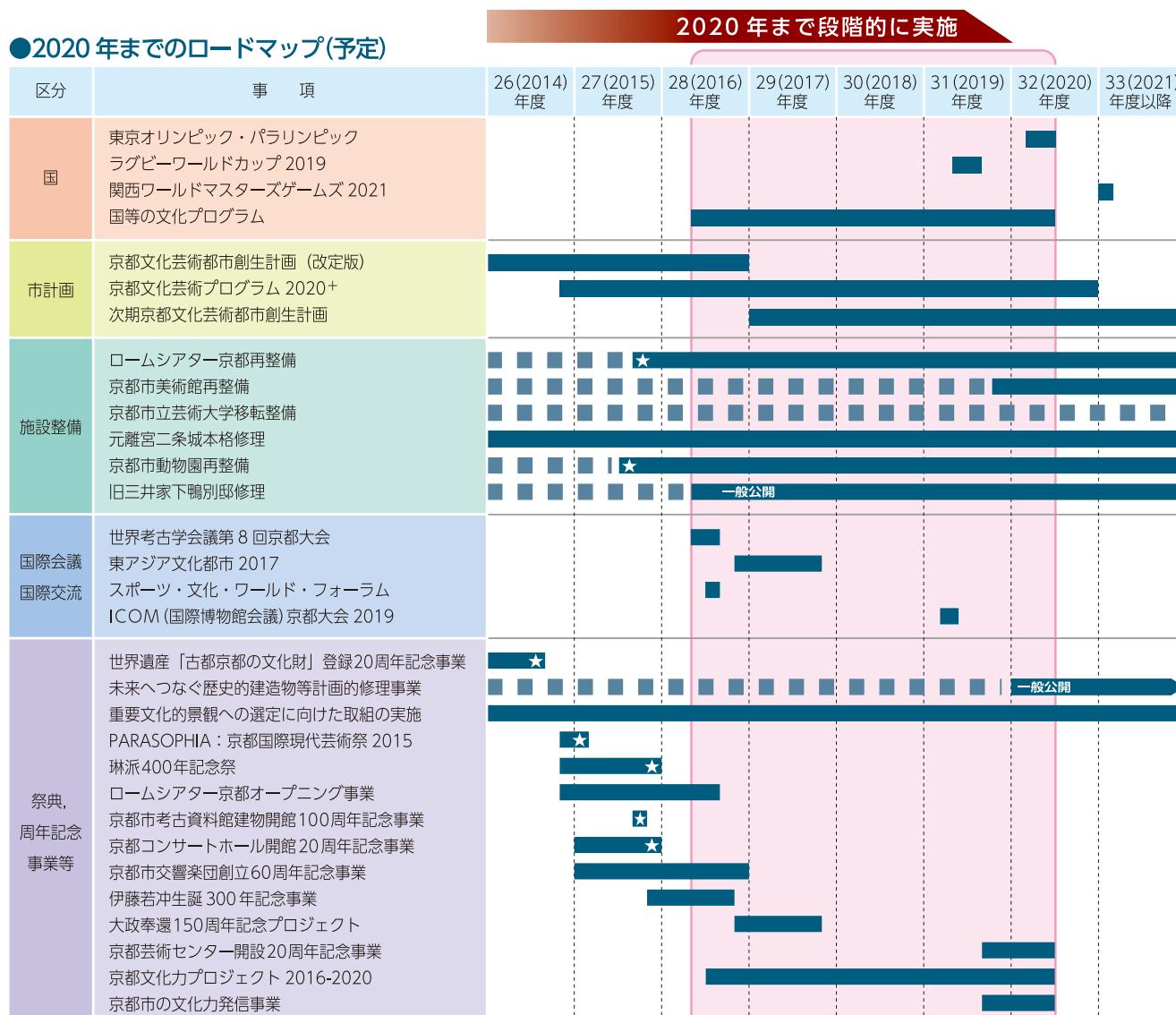
# 2020年に向けてのスケジュール

平成 32 年(2020年)までに京都においては大規模な事業の実施や、京都市の核となる文化施設の整備を予定しており、これらのソフト事業とハード事業を両輪として、段階的に進め、東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けての機運を高めていきます。

さらに、文化庁の京都への全面的な移転についても、できる限り早期に実現できるよう、国、京都府、経済界などと力を合わせ、着実に推進していきます。

これらの取組を、一過性のものとして終わらせず、未来に残す遺産として後世へ継ぐことができるよう、また文化庁の全面的移転を契機とし、京都の文化芸術の力で日本を元気にできるよう、プログラムを着実に推進していきます。

## ●2020年までのロードマップ(予定)



☆は完了した事業を示しています。

東京オリンピック・パラリンピックにおける文化プログラム期間  
(2016年リオデジャネイロ大会以降)

国等の文化プログラムとも連携

平成28年(2016年)8月 発行

京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課

〒604-8006 京都市中京区河原町御池下る下丸屋町394番地 Y・J・Kビル2階

TEL 075-366-0033 FAX 075-213-3181

京都市印刷物 第284499号

